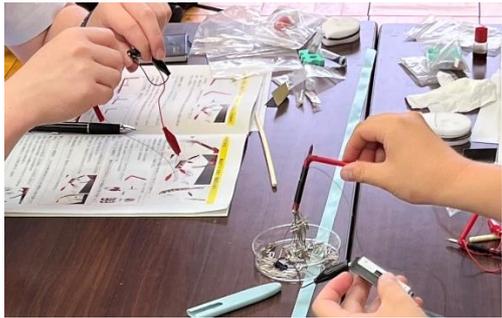


小学校理科教育 実技研修会 終了報告

テーマ	授業で使える実験プラン、教材紹介
日時	令和6年6月27日(木)
会場	石狩教育研修センター
講師	里 彰浩 氏 (お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 特任講師)
参加者	28名
研修会 の 様子	 <p>昨年に引き続き、お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所の里先生に講師をお願いしました。理科の教科書会社によって、実験方法が大きく異なり、見比べてみると、それぞれの出版社の「思い」が読み取れます。</p>
	 <p>6年生の「人の体のつくりと運動」の単元では、唾液のはたらきについての実験があります。唾液を出すことを嫌がる子どもも多く、なかなかうまくいかない実験です。ここでは、マイクロチューブとチャック付き袋、綿棒を使い、個人で、または自宅でも実験できる方法を教えていただきました。唾液は綿棒を口で加えて染みこませるので、抵抗感なく実験できそうです。参加者からは「一人一人が実験できるのはすごくいい」「たくさんの実験結果から考察できる」「水の量を増やした方が、結果が正確に出そう」等、いろいろな意見が出ました。</p>
	 <p>5年生の「電流のはたらき」の学習内容です。こちらの実験も一人一人が実験できるように、ストローと割り箸を使ってコイルを作りました。釘の長さに合わせてストローの長さもちょうどよく計算されており、子どもでもコイルづくりが簡単にできるように設計されていました。強さを調べるクリップも、できるだけ小さいものを使用し、誤差を少なくする工夫がなされていました。</p>
	 <p>最後に、今後学校現場にも導入されてくるかもしれない3D プリンタを使用した教材づくりについても紹介していただきました。 アンケートでも、参加者のみなさんすべてが「有意義だった」と答えてくださるほど、楽しく、今後の指導に生かせる内容でした。</p>